

NPO・ボランティア部門

受賞者： むらかみ かずえ 村上 一枝 (76歳)
カラ西アフリカ農村自立協力会 代表



1940年北海道士別市生。日本歯科大学卒業。

医局での研修後、小児歯科医院を開業。1989年8月医院を人手に渡し、同年10月西アフリカ マリ共和国で活動する日本ボランティア団体へ参加。約1年間サハラ砂漠に滞在し極限に住む人々の生活の苦難を知り、恵まれない地域に住む人々の支援活動を決めた。

1991年、個人ボランティアとしてマリ共和国のマディナ村にて、マリ人NGO団体「コマカン協会」に初めての東洋人ボランティアとして2年間の契約で参加し、学校再開、保健環境改善、女性の収入獲得の支援を実践。契約終了後NGO団体を設立、マリ共和国外国人籍NGO団体の認可を得た。バマコ市にマリ事務局を開設し、クリコ県で独自の支援活動を開始した。歯科分野の支援ではなく「人に頼らないで、自分の力で健康に生きていく」をテーマに地域密着型の「生きるため」の支援である。井戸掘りから始まり、栄養源となる野菜栽培、植林活動、教育の普及や女性適正技術の指導を強化し、女性の収入獲得を実践した。伝統的な慣習が強く女性に閉鎖的な社会で、男性の理解と女性の目覚めは非常に困難であったが、女性が収入を得ることで男性の意識も徐々に変わって来た。現在は女性貸付事業を継続し家計の改善を図っている。

長い間の活動は、女性識字教師を生み、助産師や「女性保健普及員」が誕生し女性に力を付け、とりもなおさず強い勇気と明るい未来をもたらしている。

これら支援は、止まることのない自然環境の悪化の中、その地を故郷として日々生きている人々に確実な目覚めと勇気、そして活力を与えた。常に自立した生活の構築に取り組み、まるで乾いた砂漠が水を吸うかのごとく学び、理解し、真摯に実践する姿は、現地の人々との共同作業の成果である。支援は半ばであり、現在も続いている。

推薦者： 鴨井 久一 日本歯科大学 名誉教授
マンスール・ジャーニュ 光陽物産株式会社 海外プロジェクトマネージャー